

スケールおよびノギス

【技術分野】

その他（計測）

【特許番号/公開番号】

特開 2009-244248

【利用分野・適用製品】

スケールおよびノギス

【ライセンス情報】

実施許諾 【可】 権利譲渡 【否】

【事業化情報】

実施実績 【無】 許諾実績 【無】

【目的】

簡易かつ精度高く計測することができるスケールを提供する。

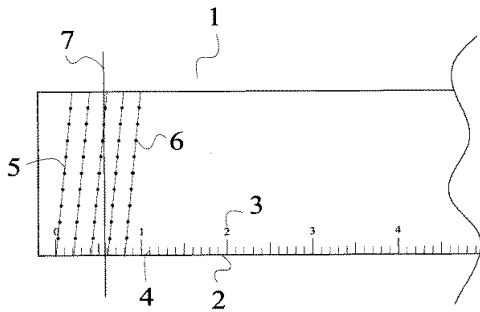
【技術概要】

平板状の側面を少なくとも一つ有するスケールは、平板状の側面の一边であり計測の基準となる定規辺と、定規辺の所定間隔を複数に等分割するように定規辺に対して斜め方向に設けられた第1の目盛とを備える。第1の目盛よりも広い間隔で定規辺を複数に等分割する第2の目盛を備え、第1の目盛3は、第2の目盛4の所定間隔を複数に等分割する。第1の主目盛3は、定規辺を1cm毎に等分割する。第2の主目盛4の1目盛間隔は、第1の主目盛3の間隔1cmを10等分した、1mmである。定規辺と角度 θ ($0^\circ < \theta < 90^\circ$)をなす補助線5を備え、第1の目盛は補助線上に設けられている。図では、主目盛3の目盛「0」から2mm毎に設けられている。副目盛6は、同一補助線5に等間隔に9個設けられており、補助線5を10等分する。副目盛6は、定規辺2の方向の距離2mmを10等分した、0.2mmを示す目盛となる。計測線7は第2の主目盛4の5mmと6mmとの間に位置し、第1の主目盛3の目盛「0」の位置から数えて3本目の補助線5の8個目の副目盛6と交わっているため、5.6mmであることがわかる。

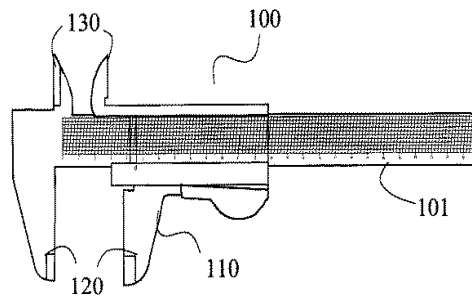
【効果】

第1の目盛（副目盛）が定規辺に対して斜め方向に設けられているので、定規辺と平行方向に目盛を設けるよりも目盛間隔を長くすることができ、目視による計測が容易になる。また、第1の目盛（副目盛）により第2の目盛（主目盛）間隔以下の精度での計測が可能となる。

【特記事項・図面・その他】



第1の実施形態のスケールの構成を示す正面図。



第4の実施形態のノギスの構成を示す正面図。